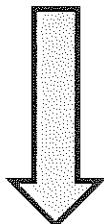


墨田区におけるプラットフォーム

【定義】

プラットフォームは特定の生活課題に関係する人や多様なグループが集まる共通の場であり、新たなネットワークを形成し、問題発見や課題解決などを図ろうとする試みです。

ここでいう「場」は、必ずしも物理的な場を意味するものではありません。インターネット上における場でもかまいません。要は、課題解決に関連した魅力的なメンバーの参加を得ることが大切であり、それによりプラットフォームは魅力的なものになるということです。



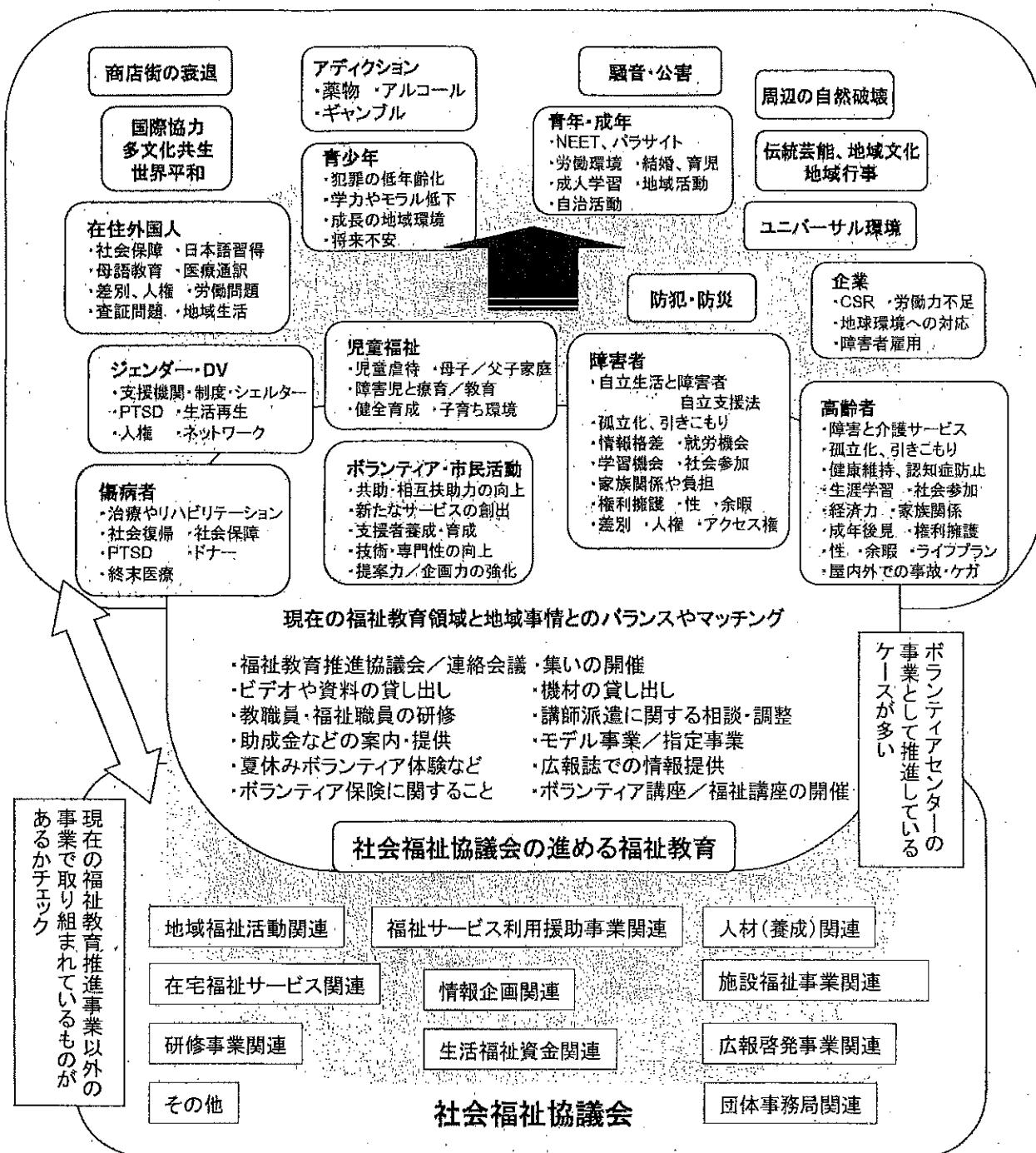
現状でも様々な類型のプラットフォームはありますが、
類型別に分けた場合は下記の3種類となります。

【プラットフォームの具体例・類型】

類型	問題発見プラットフォーム	連携支援プラットフォーム	問題解決プラットフォーム
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の主体的な関わりのなかで、地域の潜在化した生活問題を把握することができる。 ・顔見知りになることや集まるなど交流を目的とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による支援活動の相互連携や連絡調整が行われる。 ・集まりが日常化し、運営が組織的に住民主導で行われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政組織、福祉施設などの専門職が関わり、組織同士が既成の活動を越えて問題解決を行うもの。
インフォーマルなプラットフォーム			フォーマルなプラットフォーム
具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り ・ふれあいサロン 	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域福祉活動 ・ボランティア・NPO等の連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りネットワーク会議 ・要保護児童対策地域協議会

※詳細については、「第三次墨田区地域福祉計画（後期）」32ページに記載があります。

地域内に存在する生活課題例



プラットフォームによる福祉教育推進イメージ例

「ふるさと学習推進事業」による福祉教育

■ 学習主体：小・中学校（児童・生徒）

事前のマーケティング
により現状を把握

【子ども】

- ・生きる力の育成
- ・心の教育の推進
- ・規範意識の醸成

与件【子ども、家庭・地域の現状】

- ・自然体験や社会体験、生活体験不足
- ・善悪の判断力の低下、規範意識の低下、思いやりの心の欠如
- ・家庭や地域の教育力の低下
- ・三無主義（無気力・無関心・無感動）三間無（仲間・時間・空間）

期待される成果

期待される成果

【家庭・地域】

- ・家庭の教育力向上
- ・地域の教育力向上

【ねらい】

地域を知り、地域に愛着と誇りを持ち、地域へ貢献する活動を通して、社会の一員としての自覚と市民性を育み、人権尊重を基盤としたふるさとの福祉づくりの構築をめざす

各段階の成果
目標を設定

【学習の視点】 問題解決型学習 地域還元型学習 協同参画型学習

都道府県社協

- 学校、家庭、地域社会が一体となつた体系的なふるさと学習推進の基本方針等の提示
- モデル事業の創設と助成
- 子どもたちと地域を結ぶ人材育成
- 県域の人材、情報、学習機会、発表の場等の提供

市町村社協

- 「福祉教育推進プラットフォーム」の構築（知恵・資源の活用、プログラムの共同開発と協同実践）
- 「ふるさと福祉教育推進計画」（仮称）の策定（理念、目標、価値、戦略の共有）

支援

協働

ボランティア 公民館

NPO → 福祉教育推進プラットフォーム

当事者 老人クラブ 学校

「ふるさと学習年間計画の作成」

・年間30時間以上（総合的な学習の時間や地域での公募形式を使って）

- 子どもたちの発想、視点で地域のことについて学習する
- 地域の人から、地域の生活・福祉課題等についての話を聞く
- 地域へ出かけ地域の生活・福祉課題等に触れる（地域で暮らす当事者の方々の話を聞く等）
- 地域課題と自分の暮らしとの関連について学習
- 地域課題に対し、自分たちにできる課題解決に向けた活動を行う
- 地域課題に対し、地域の人と一緒に課題解決に向けた活動を行う
- 振り返り
- 放課後、土日、夏休み等を利用して、自発的活動の展開

【例】伝承文化体験、親子ボランティア活動など

ふるさと学習は、10代の青少年が自身の生活する地域について、その歴史や文化などの側面とともに地域の暮らしの現状について、地域の人びとから直接その状況や課題などについて学び、ともに解決方法を考えていくものです。多感な時期に地域の暮らしの現実を調査し、また課題解決に大人や当事者などとともに参画することは、将来の市民としての青少年の生き方や考え方方に少なからず影響を及ぼすことが期待されます。また、子どもを通して、親にとってもまた地域課題に気づいたり関心をもつ機会となり、地域福祉推進に多大な貢献をすることになります。